

オルガノ株式会社

2020年3月期 上期決算説明会

(証券コード: 6368)

2019年11月11日

目 次

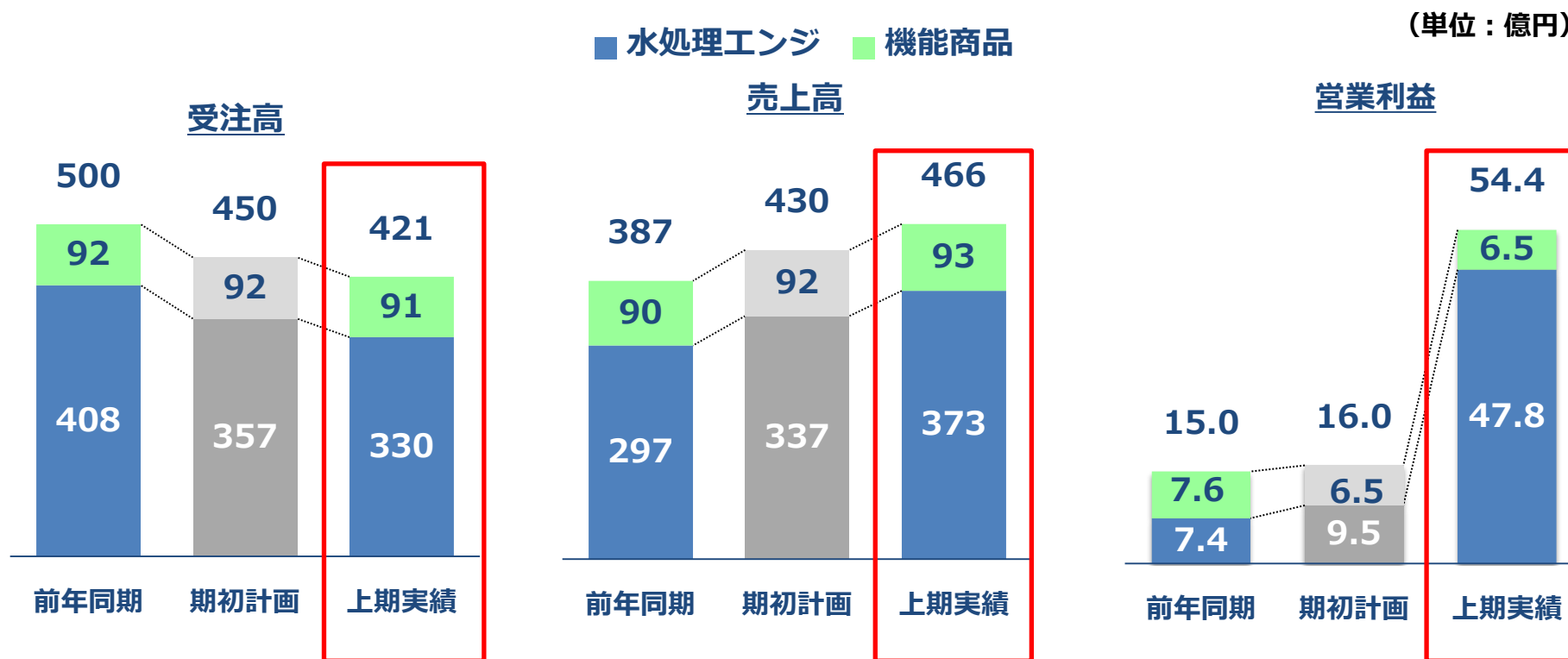
1. 2020年3月期 上期実績
2. 2020年3月期 通期見込
3. 中長期経営計画進捗状況
4. 会社概要

目 次

1. 2020年3月期 上期実績
2. 2020年3月期 通期見込
3. 中長期経営計画進捗状況
4. 会社概要

20年3月期上期実績：上期実績の概況

- ・ 受注高は国内堅調も、海外の電子産業投資減速が影響し減少
- ・ 売上高は前期受注プラントの工事進捗・ソリューション拡大で増加
- ・ 営業利益は増収効果に加え、プラントの収益性改善で大幅増加



20年3月期上期実績：損益計算書

単位：億円	18.9 実績	19.9 期初計画	19.9 実績	前期差	計画差
受注高	500	450	421	- 78	- 28
売上高	387	430	466	+ 78	+ 36
売上総利益 (%)	93 (24.1%)	99 (23.0%)	137 (29.5%)	+ 44 (+ 5.4pt)	+ 38 (+ 6.5pt)
販管費	78	83	83	+ 4	+ 0
営業利益 (%)	15.0 (3.9%)	16.0 (3.7%)	54.4 (11.7%)	+ 39.3 (+ 7.8pt)	+ 38.4 (+ 8.0pt)
経常利益	15.4	15.5	53.1	+ 37.6	+ 37.6
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	9.1	8.0	36.4	+ 27.2	+ 28.4

20年3月期上期実績：受注高の状況（地域別）

・ 上期受注は国内堅調も台湾・中国など海外投資が減速

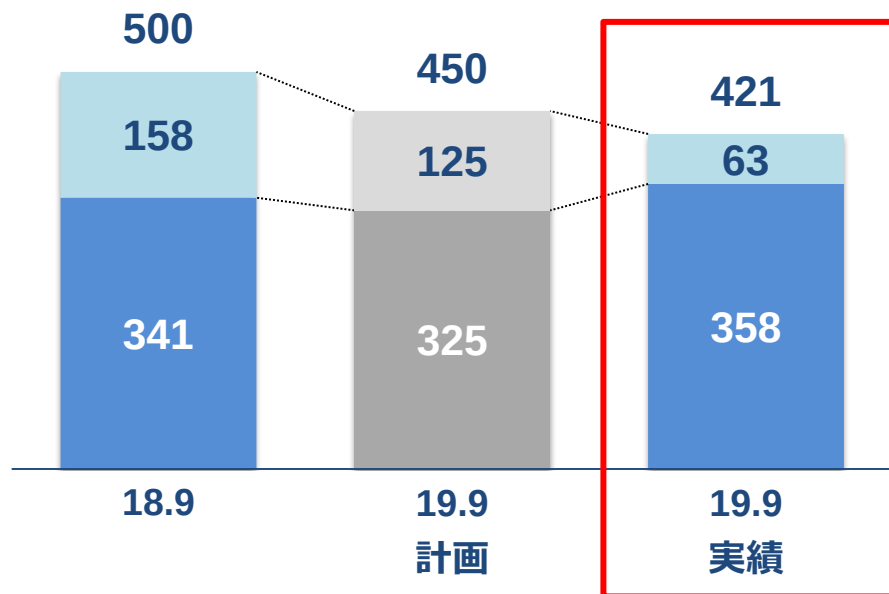
⇒ 国内はメンテや設備改造などソリューションが好調に推移

⇒ 海外では台湾・中国で電子産業関連の大型投資が急減

（単位：億円）

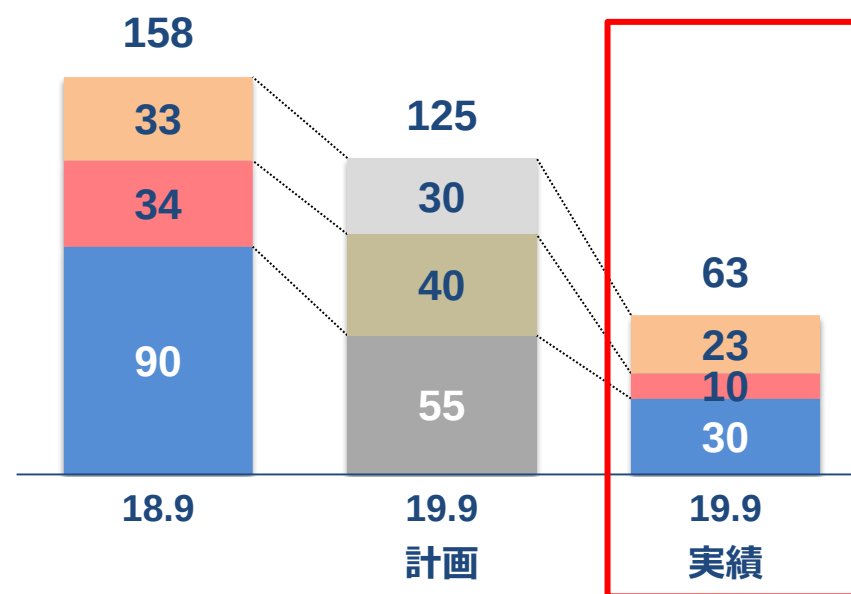
国内・海外別 受注高

■ 国内 ■ 海外



海外地域別 受注高

■ 台湾 ■ 中国 ■ 東南アジア他



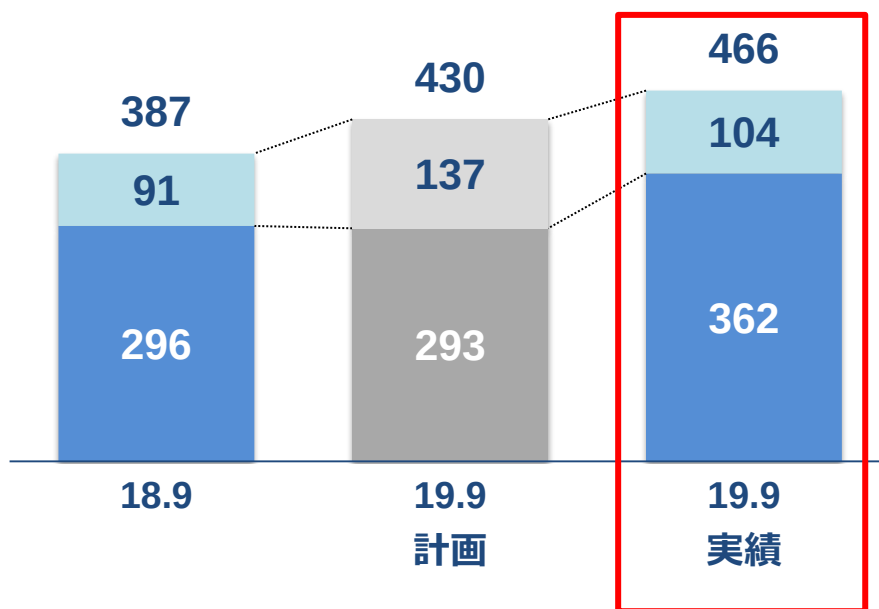
20年3月期上期実績：売上高の状況（地域別）

- 売上は国内・海外で拡大も、海外は計画比で未達
 - ⇒ 前期受注プラントの工事進捗。ソリューションも好調
 - ⇒ 海外は台湾・中国の電子産業分野における大型投資減速が影響

（単位：億円）

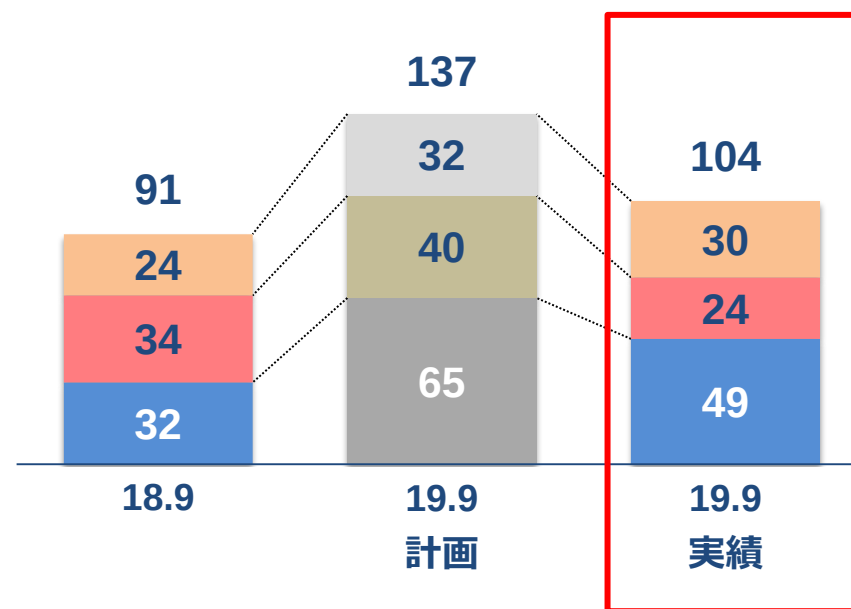
国内・海外別 売上高

■ 国内 ■ 海外



海外地域別 売上高

■ 台湾 ■ 中国 ■ 東南アジア他



20年3月期上期実績：水処理エンジニア事業の状況

・ 各分野とも前年同期・上期計画を上回る売上高を達成

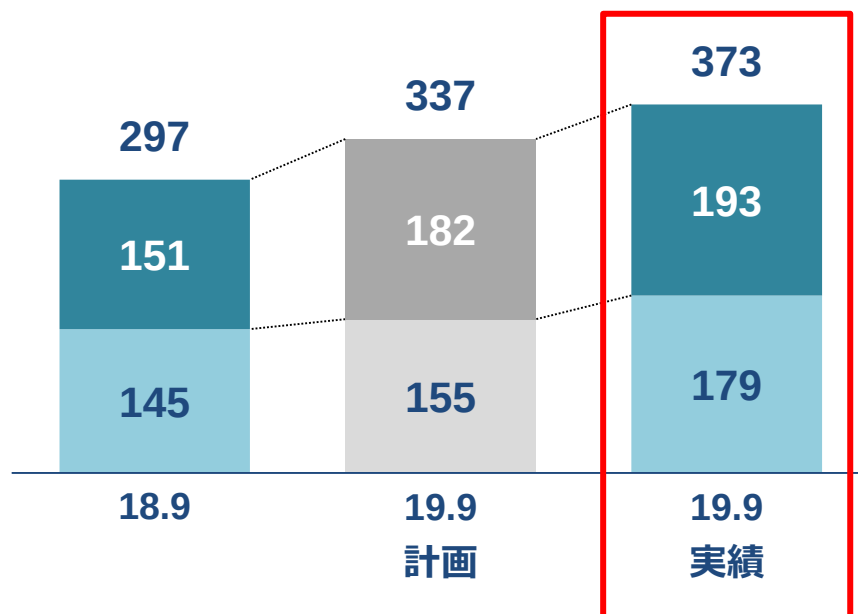
⇒ 電子産業は海外のプラント減速も、国内案件で想定より工事進捗
設備の改造・メンテなどソリューションは好調

⇒ 一般産業、電力・上下水はソリューション中心に伸長

(単位：億円)

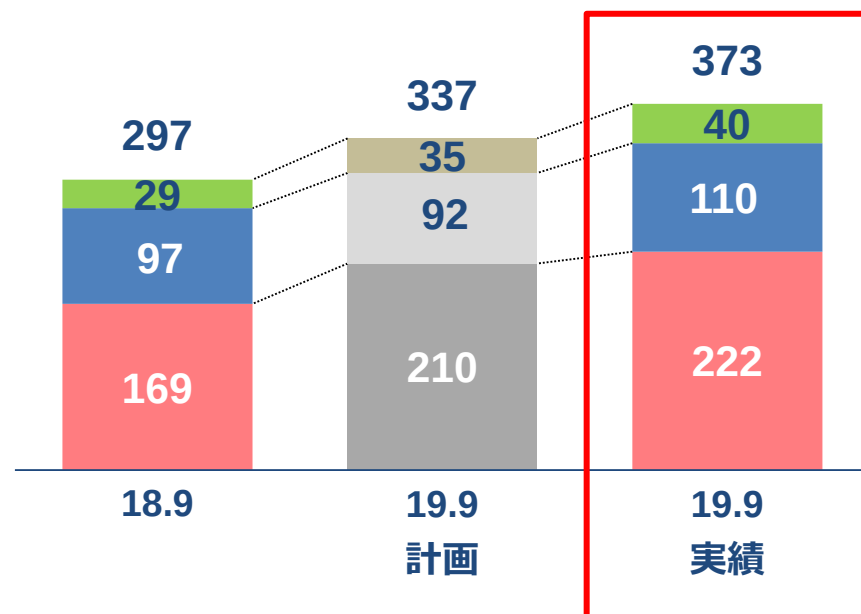
水エンジニア事業：部門別売上高

■ソリューション ■プラント



水エンジニア事業：顧客別売上高

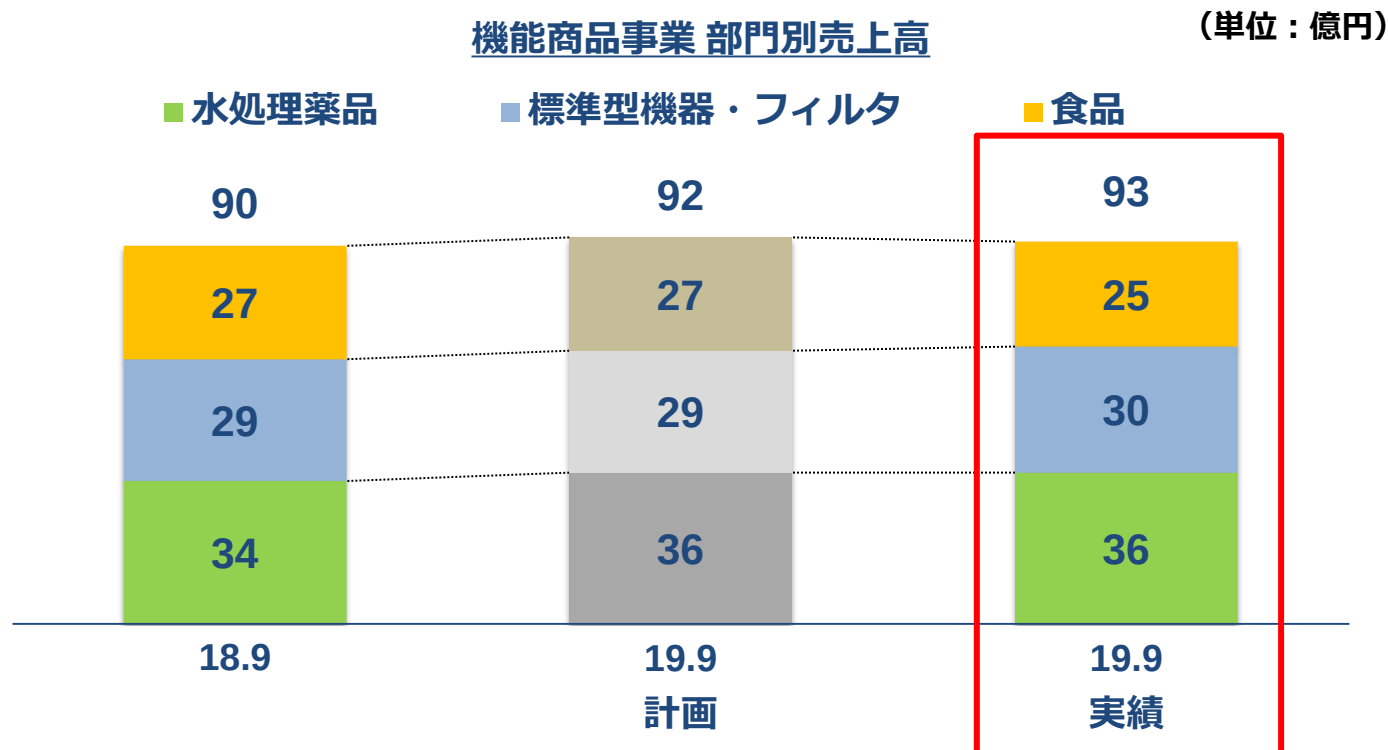
■電子産業 ■一般産業 ■電力・上下水



20年3月期上期実績：機能商品事業の状況

・ 機能商品事業は各部門とも堅調に推移

- ⇒ 水処理薬品は堅調な国内に加え、海外での営業強化で拡大
- ⇒ 機器・フィルタは新商品投入に加え、中国での営業展開が奏功
- ⇒ 食品は若干の売上減少も堅調に推移

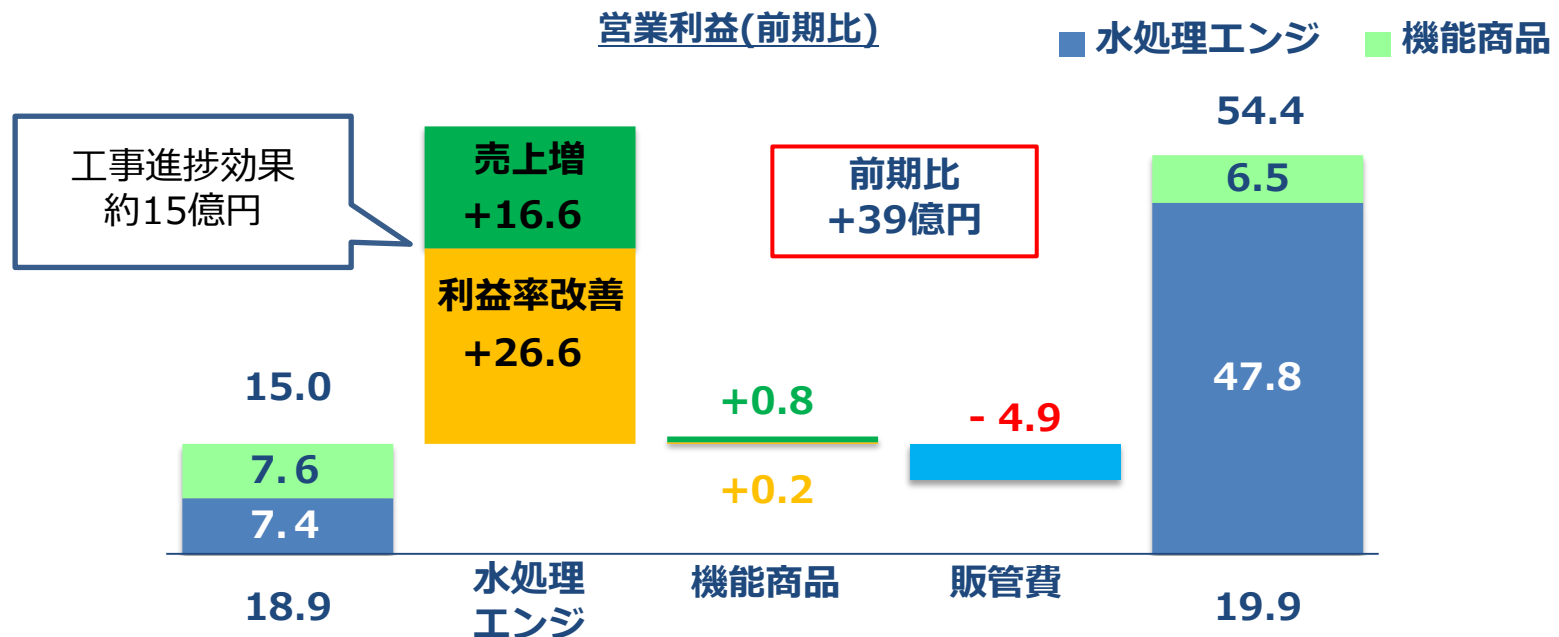


上期営業利益分析（前期比較）

・ 上期営業利益は前期比+39億円の大幅改善

- ⇒ 売上・利益は下期に偏る傾向あったが、受注残拡大で平準化。加えて想定よりも工事進捗が進んだことで下期想定利益の一部上期に実現
- ⇒ 受注減速で海外売上が減少する中、比較的利益率の高い国内案件やソリューション案件が伸長したことで利益率を押し上げ
- ⇒ 収益性を重視した受注戦略によって低採算案件が減少したことも奏功

（単位：億円）

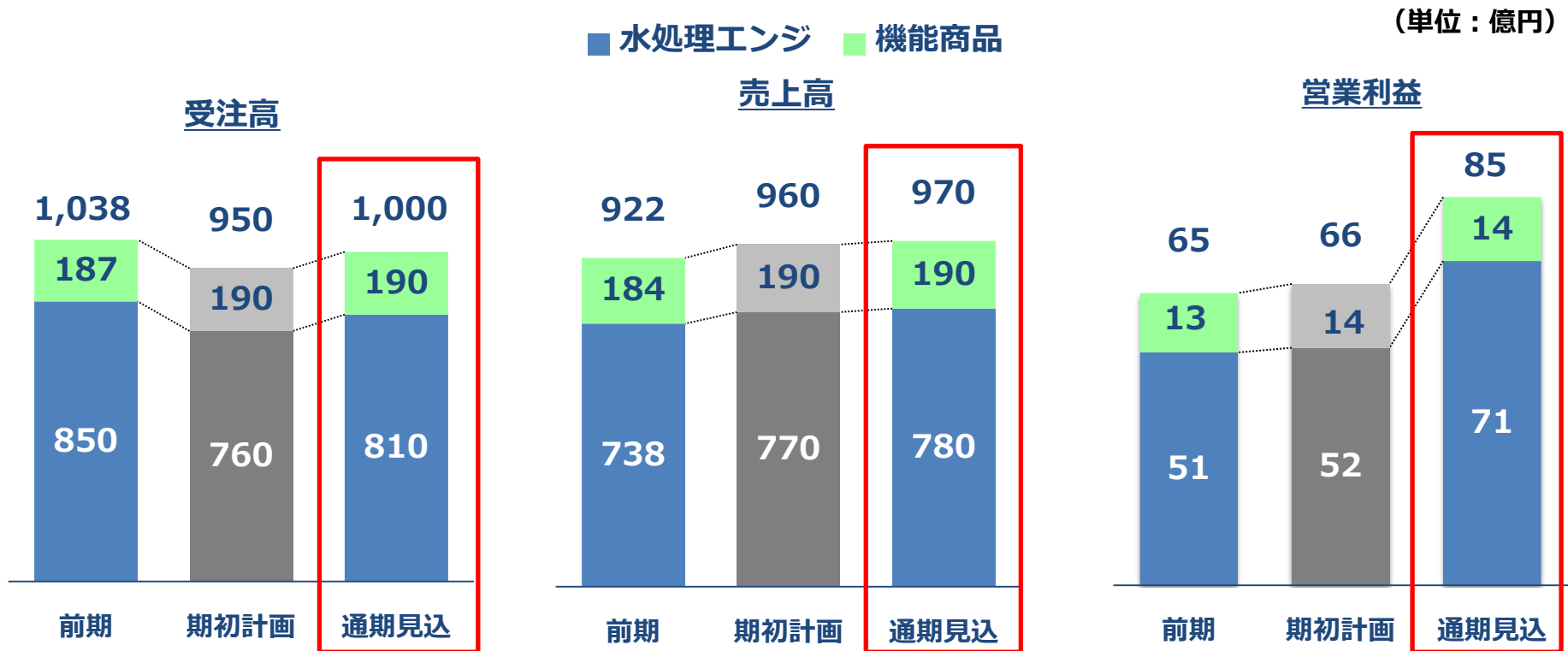


目 次

- 1. 2020年3月期 上期実績
- 2. 2020年3月期 通期見込**
- 3. 中長期経営計画進捗状況
- 4. 会社概要

通期見込の概況

- ・ 受注高は年度後半に台湾・国内で半導体関連の大型投資回復を想定
- ・ 売上高は前期受注プラントの工事進捗、ソリューション拡大が寄与
- ・ 営業利益はプラントの収益性改善・ソリューション拡大により増加



20年3月期通期見込：損益計算書

単位：億円	19.3 実績	20.3 期初計画	20.3 見込	前期差	計画差
受注高	1,038	950	1,000	- 38	+ 50
売上高	922	960	970	+ 47	+ 10
売上総利益 (%)	229 (24.8%)	234 (24.4%)	259 (26.7%)	+ 29 (+ 1.9pt)	+ 25 (+ 2.3pt)
販管費	163	168	174	+ 10	+ 6
営業利益 (%)	65 (7.1%)	66 (6.9%)	85 (8.8%)	+ 19 (+ 1.7pt)	+ 19 (+ 1.9pt)
経常利益	65	65	83	+ 17	+ 18
親会社株主に 帰属する 当期純利益	44	44	56	+ 11	+ 12

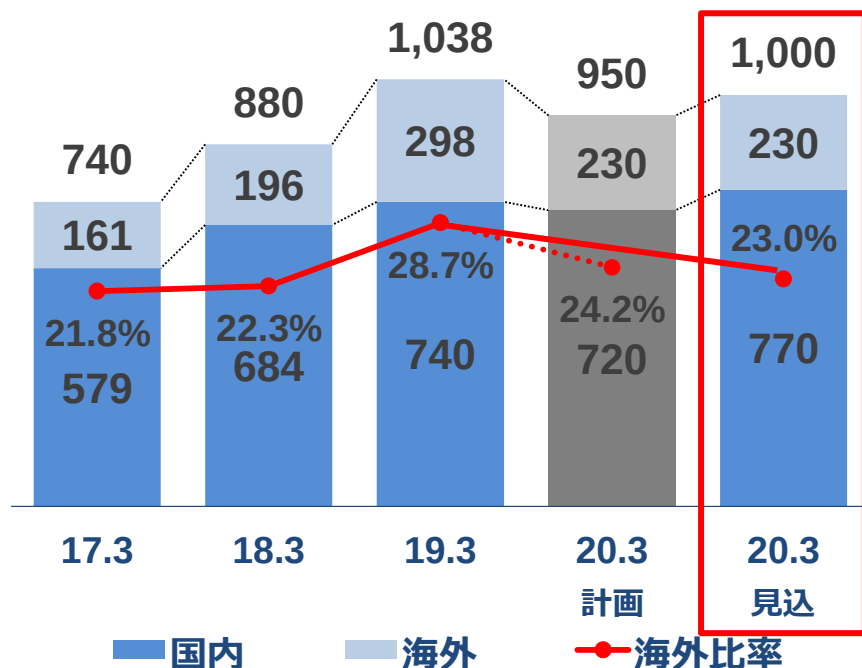
2020年3月期通期見込：受注高の状況（地域別）

・ 国内は堅調、上期減速の海外は台湾の設備投資が下期回復

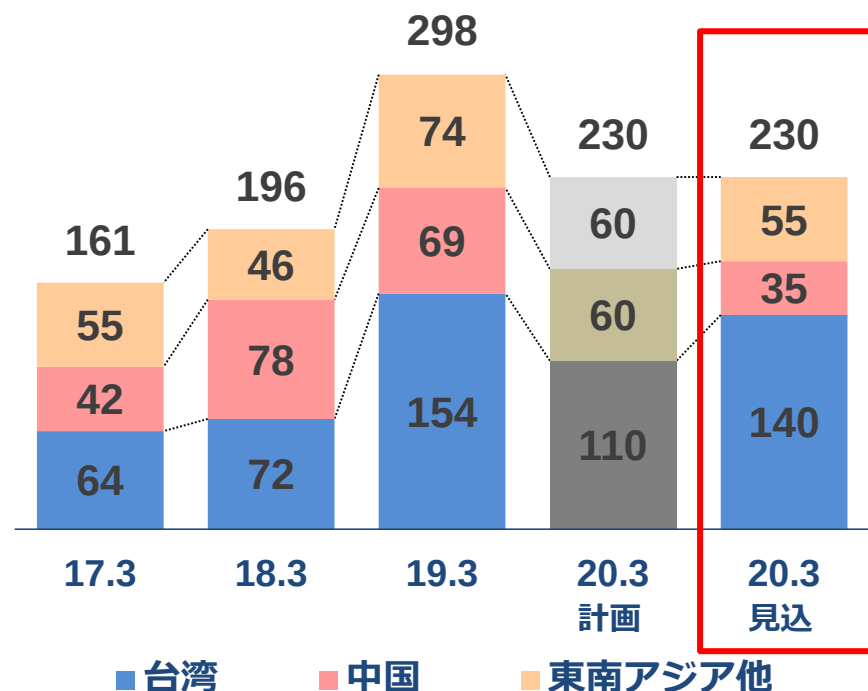
- ⇒ 国内は年度後半に半導体関連の大型案件受注を想定
- ⇒ 台湾ではファウンドリ中心に設備の積極投資を計画
- ⇒ 中国は投資計画あるも米中摩擦の影響で不透明感強い

（単位：億円）

国内・海外別通期受注高



海外 地域別通期受注高



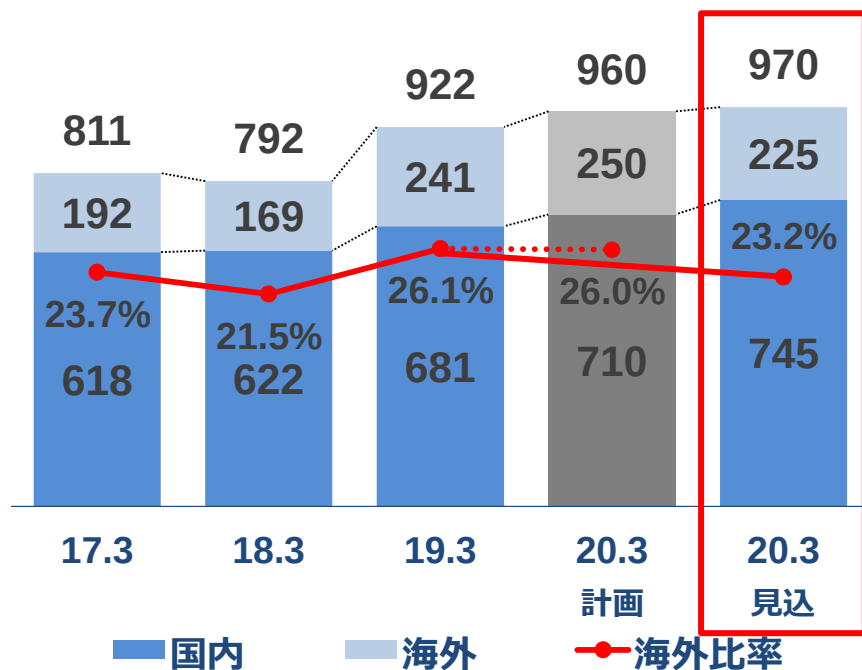
2020年3月期通期見込：売上高の状況（地域別）

・売上高は国内の好調な推移により計画達成を見込む

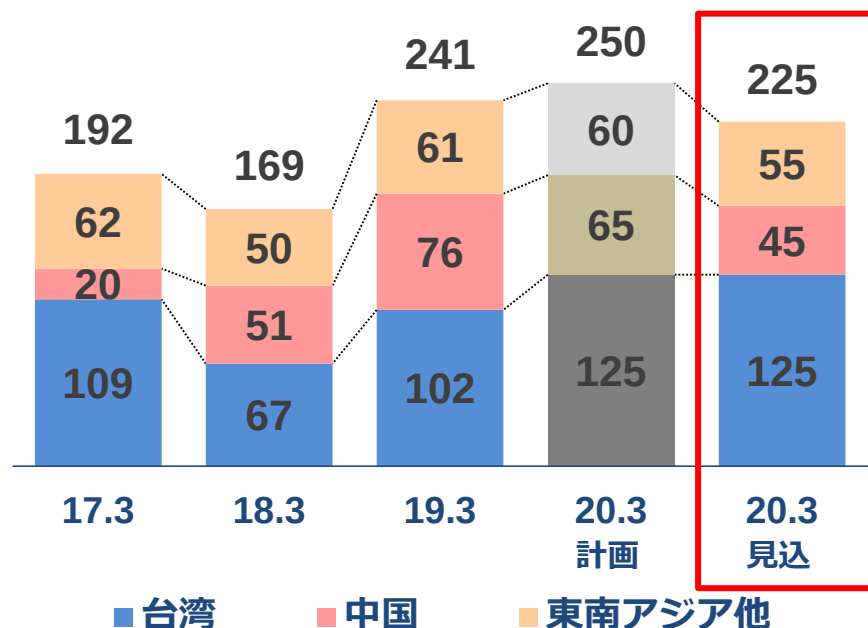
⇒ 国内は前期受注の大型案件の工事進捗に加え、設備の改造案件などソリューションが好調に推移

⇒ 海外は中国が減速も、台湾は下期受注案件の売上で計画並見込む （単位：億円）

国内・海外別通期売上高



海外 地域別通期売上高



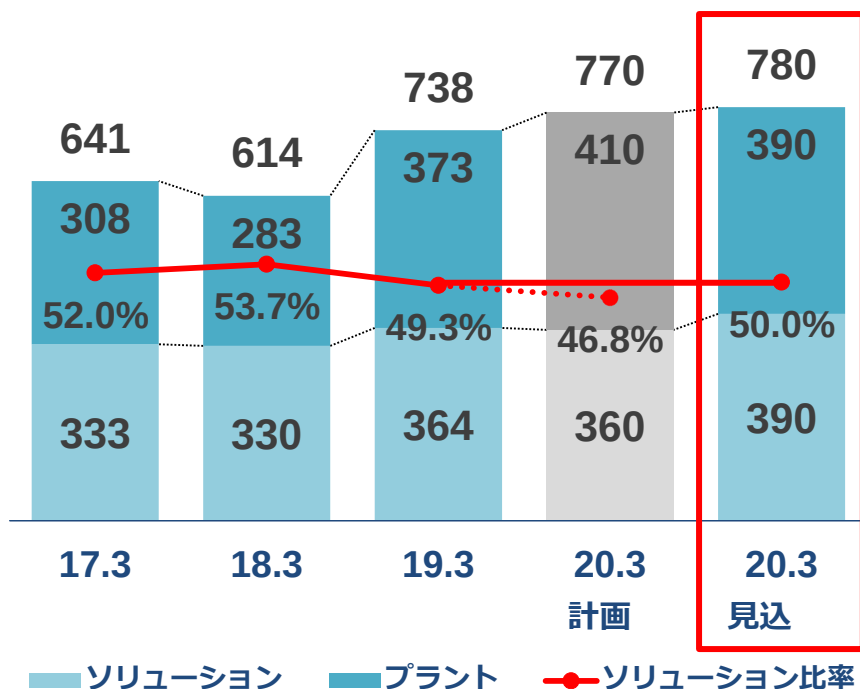
20年3月期通期見込：水処理エンジニア事業の状況

・ 電子産業の投資回復遅れが影響もソリューションが好調

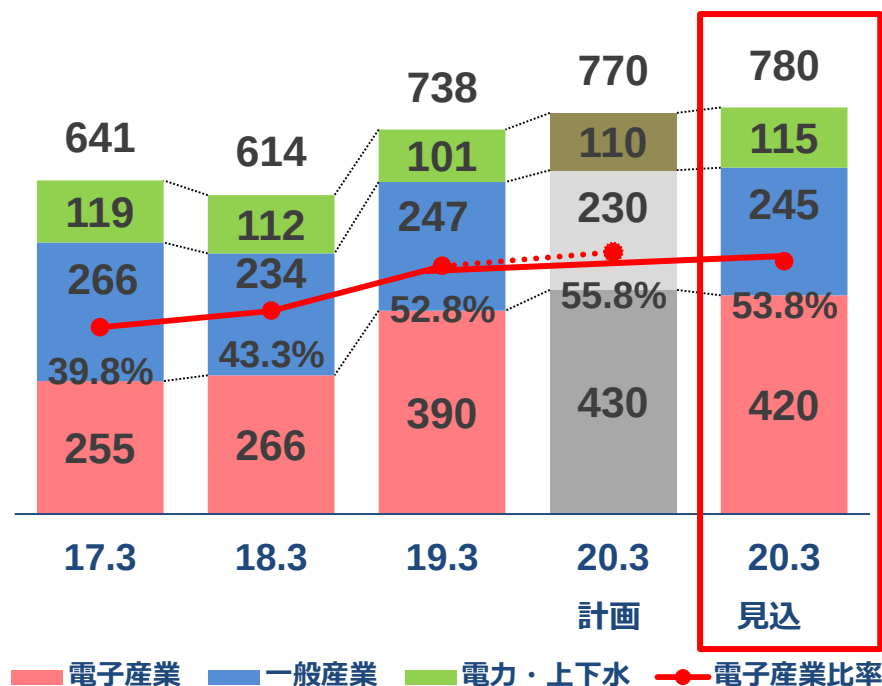
- ⇒ 電子産業はプラント・ソリューションとも国内中心に前期比で拡大
- ⇒ 一般産業は大型のソリューション案件が堅調、計画上回り前期並まで回復
- ⇒ 電力/上下水も国内ソリューション中心に順調な推移見込む

(単位：億円)

水エンジニア事業 部門別売上高



水エンジニア事業：顧客別売上高

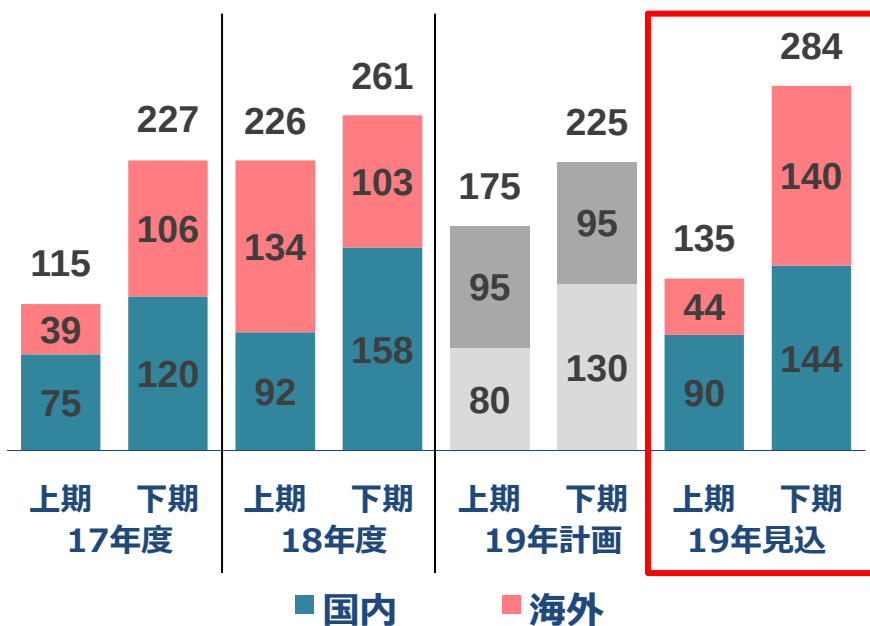


20年3月期通期見込：電子産業分野の状況（受注高）

● 受注高は上期減速も下期からの回復見込む

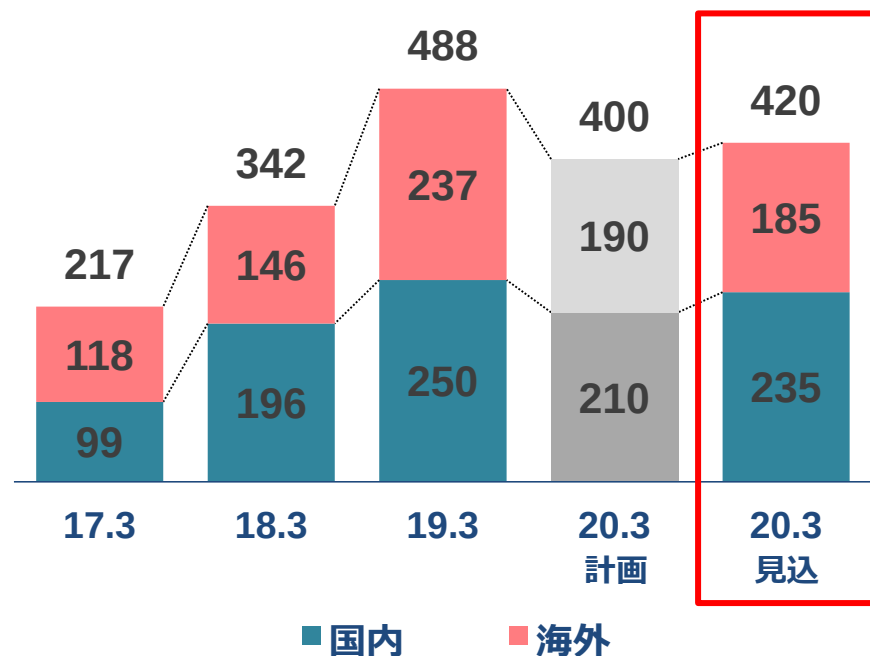
- ⇒ 上期受注高は海外中心に前年同期・計画比で減速
- ⇒ 下期は国内・台湾で大型投資回復、前下期のピークを上回る見込
- ⇒ 通期では前期を下回るものの、期初計画を上回る受注を想定

電子産業向け 受注高（上下別）



電子産業向け 受注高

（単位：億円）



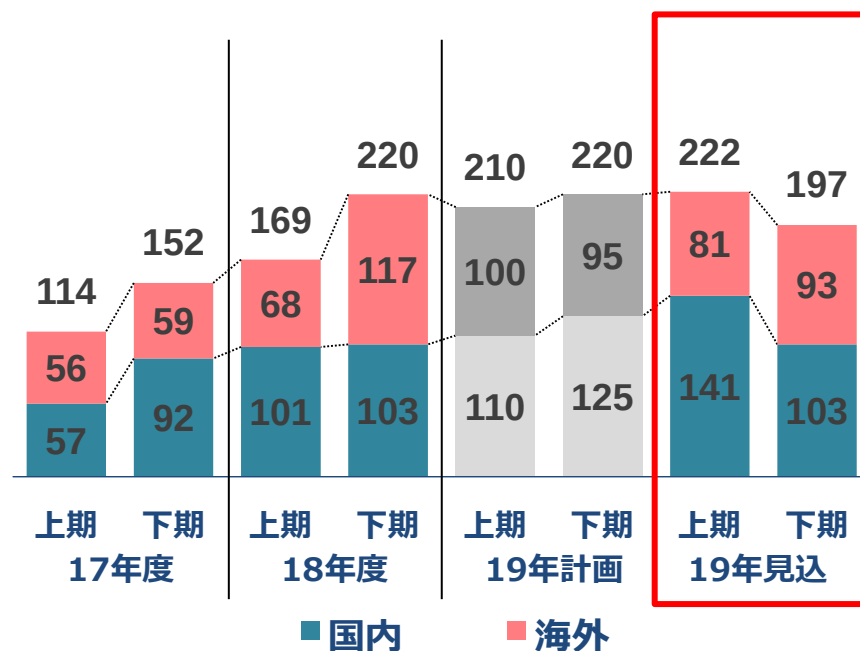
20年3月期通期見込：電子産業分野の状況（売上高）

● 売上高は通期で期初計画並の水準を想定

⇒ 国内は前期受注のプラント売上に加え、ソリューションが好調

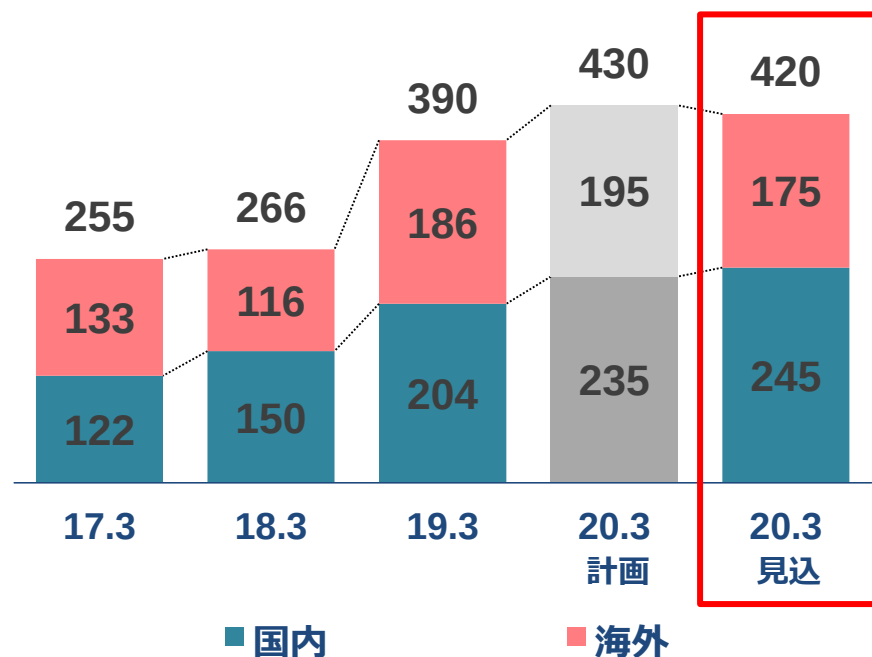
⇒ 海外は投資減速で上期減少も、台湾の投資回復で下期から改善

電子産業向け 売上高（上下別）



電子産業向け 売上高

（単位：億円）



20年3月期通期見込：部門別売上高（機能商品事業）

- 機能商品事業は各部門とも堅調に推移

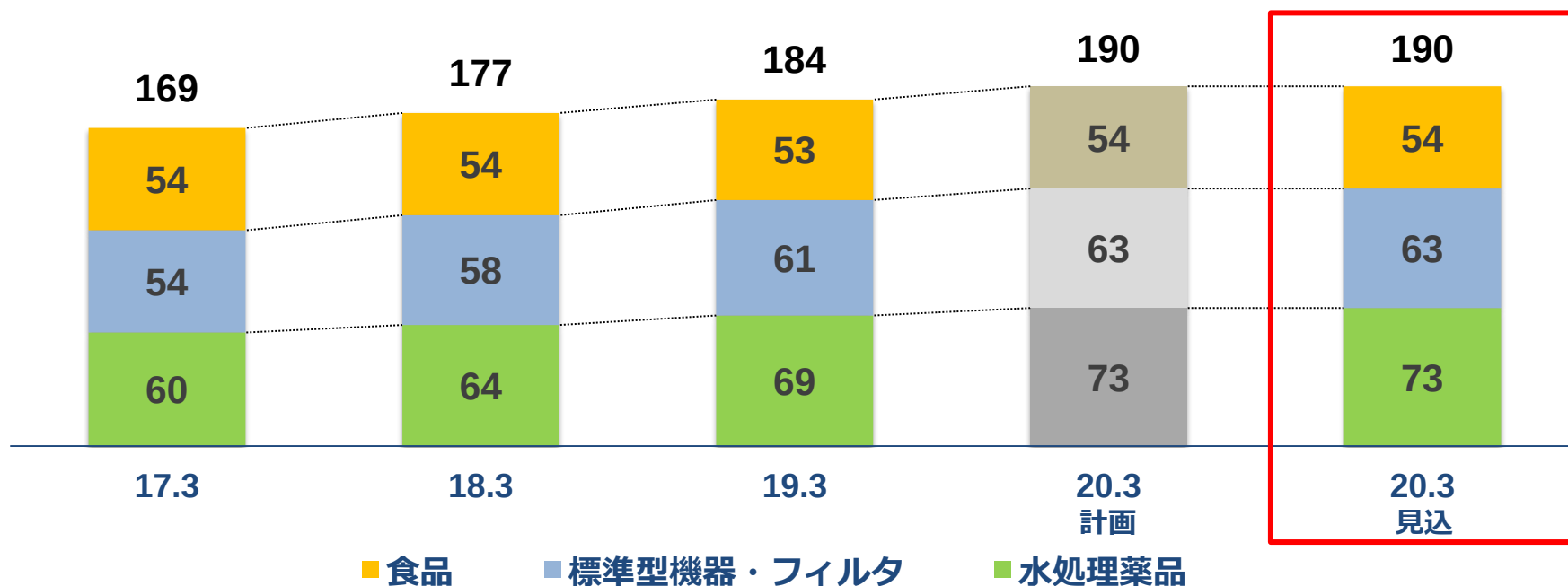
⇒ 水処理薬品は海外中心に営業展開強化、電子産業向けの売上増を計画

⇒ 機器・フィルタは製品リニューアル、中国市場開拓で増収を計画

⇒ 食品は国内を中心に堅調な推移を見込む

（単位：億円）

部門別売上高

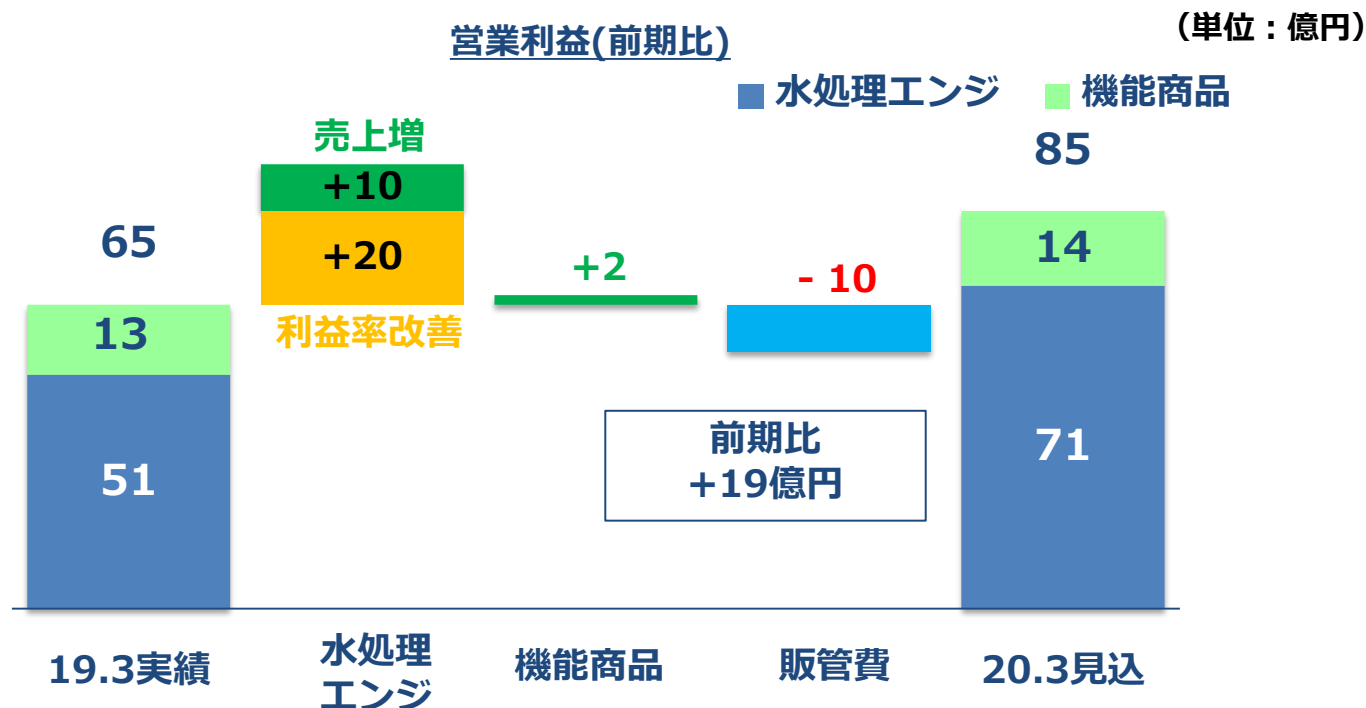


20年3月期通期見込：営業利益見込分析（前期比）

・通期営業利益は前期比+19億円となる85億円を見込む

⇒ プラント部門の収益性改善やソリューション拡大によって
水処理エンジ事業中心に利益改善

⇒ 体制強化・研究開発など将来投資により販管費は増加

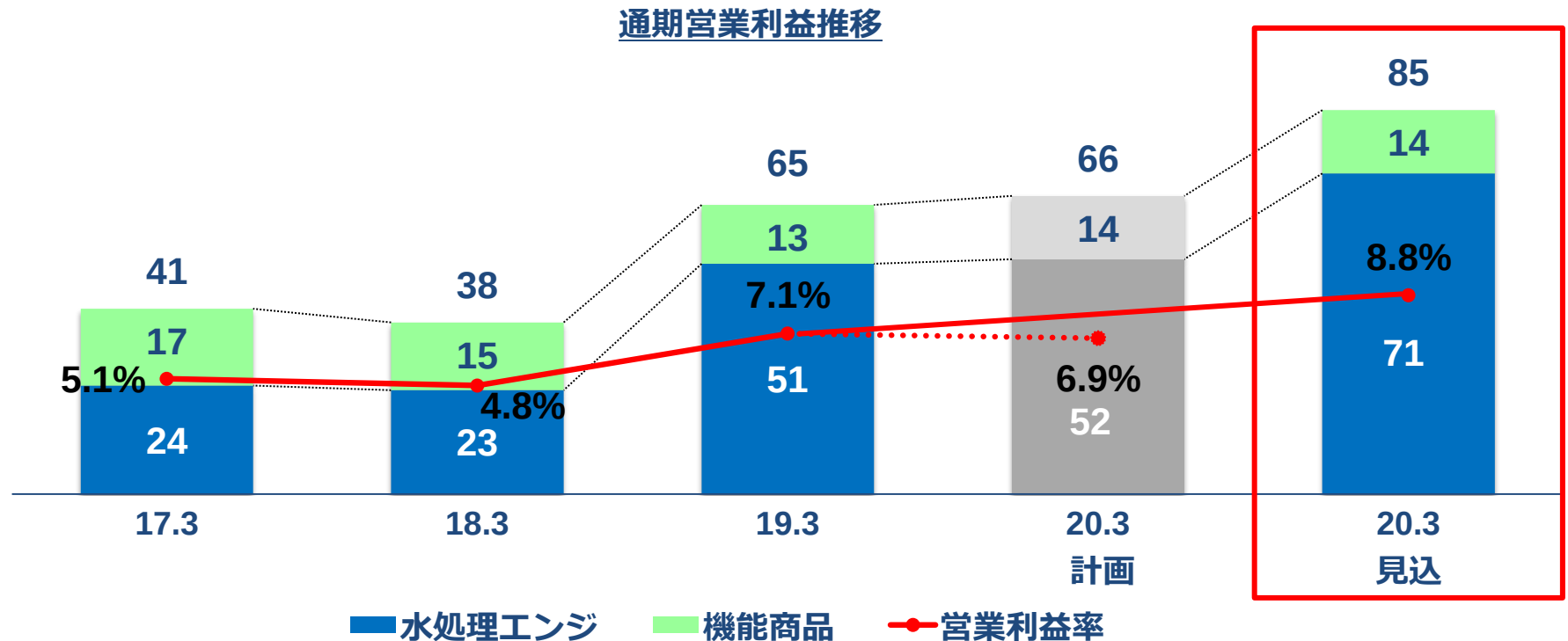


20年3月期通期見込：営業利益の推移

・ 売上拡大・収益性改善で最高益の達成に挑戦

- ⇒ 前期受注プラントの売上計上、ソリューションの拡大による増収効果に加え、プラントの収益性改善が寄与
- ⇒ 通期では13年ぶりとなる最高益達成に挑戦

(単位：億円)

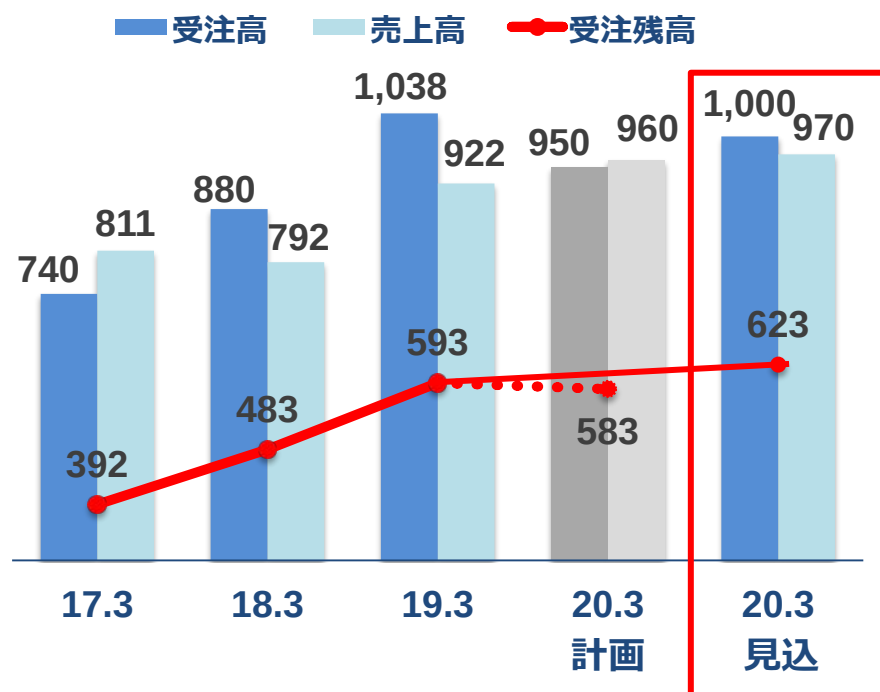


20年3月期見込：受注高・売上高の推移

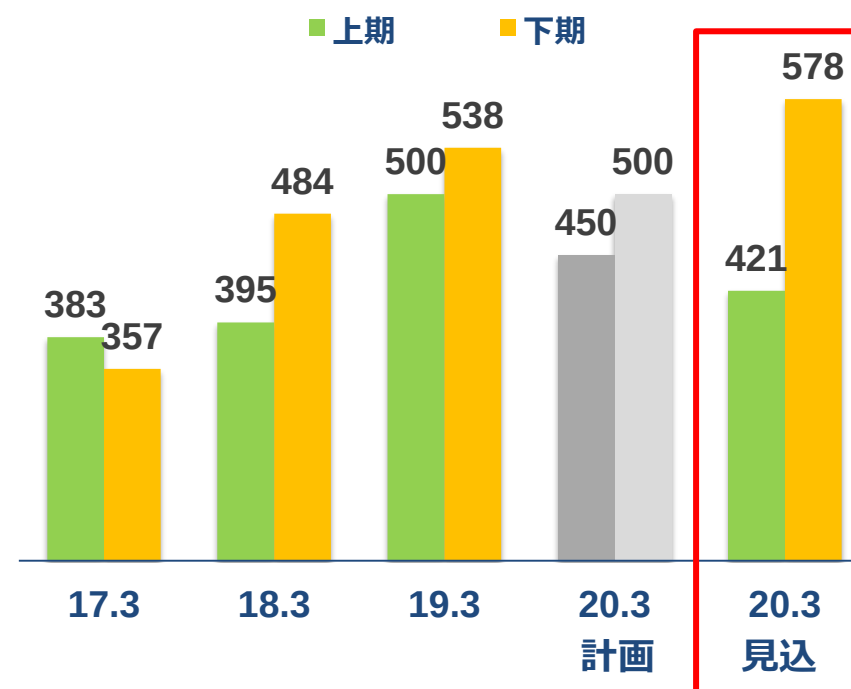
- 受注高は上期減速も電子産業投資回復で下期復調
- 受注は想定より増加も当期売上への効果は限定的
- 翌期以降の売上となる受注残高は前期を上回る水準

(単位：億円)

受注高・売上高推移



上期・下期 受注高推移

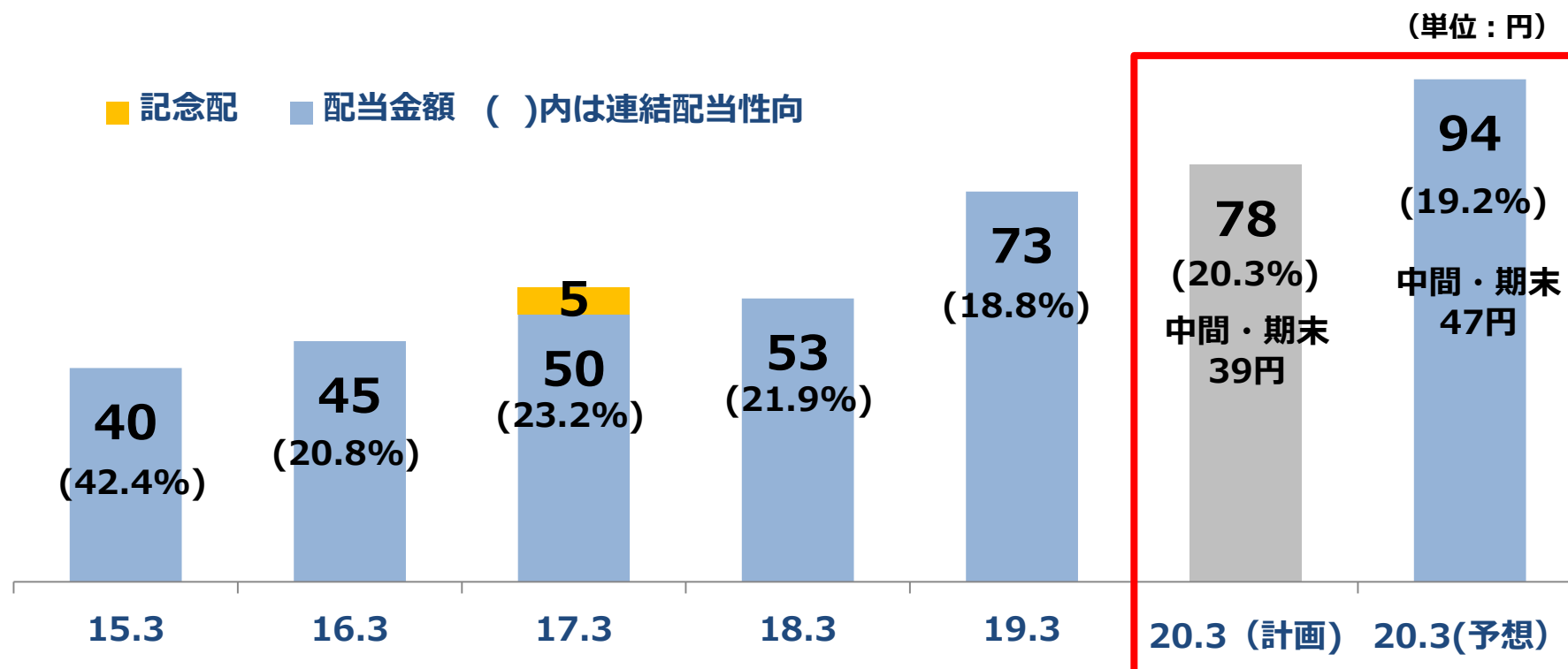


主な指標

	2019年3月期	2020年3月期 (計画)	2020年3月期 (予想)
設備投資額 (百万円)	635	800	800
技術研究費 (百万円)	1,823	2,100	2,100
減価償却費 (百万円)	920	1,100	1,100
有利子負債 (百万円)	13,659	15,000	15,000
従業員数 (人)	2,186	2,200	2,250
年間配当金 (円)	73	78	94
ROE (%)	8.4	7.8	9.8

中間・期末配当の増額

- 上期の収益状況を踏まえ、中間・期末配当を増額
- 安定的・継続的な配当の実施を基本方針としつつ、収益の状況に応じた利益配分に努める



目 次

- 1. 2020年3月期 上期実績
- 2. 2020年3月期 通期見込
- 3. 中長期経営計画進捗状況
- 4. 会社概要

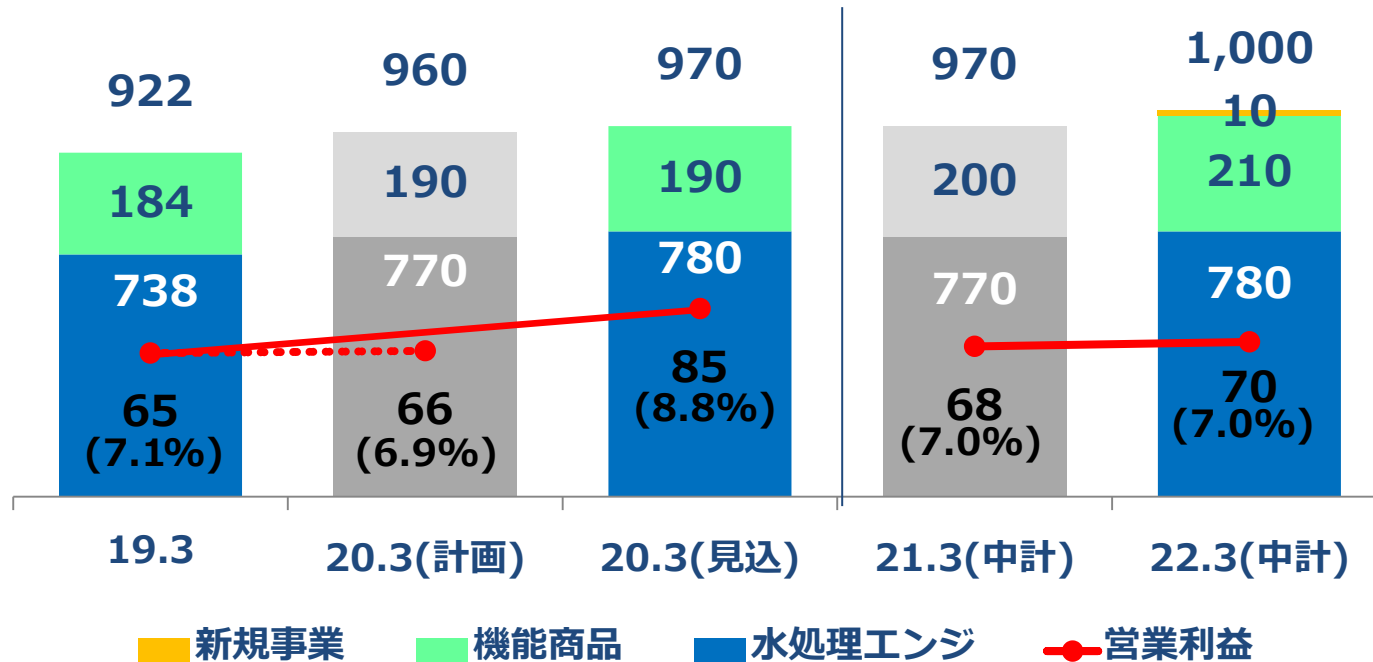
中計進捗状況：業績見通し

・利益改善が進み、20.3期は利益面で中計目標を上回る見込み

- ⇒ 受注が好調で利益面で追い風、収益改善策にも成果
- ⇒ 電子産業が想定以上に推移。プラント中心に売上拡大
- ⇒ ソリューション・機能商品は順調、新規事業は「仕込み」時期

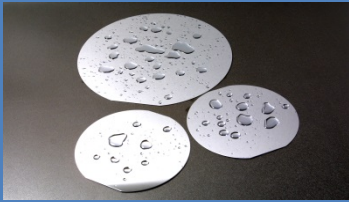
売上高・営業利益見通し

(単位：億円)



中計進捗状況

電子産業分野 の拡大



- ・ 5G進展に伴うスマートフォンやデータセンター需要の回復期待から、国内外で大型の設備投資の動き
- ・ 中国の動向は不透明感あるも、一部の投資計画に動き
- ・ 次年度以降の投資回復を期待
- ・ 微細化進む最先端半導体向けに研究開発投資を強化

機能商品事業 の強化

- ・ 製品リニューアル、新商品開発の継続
- ・ 中国市場（機器）、台湾・中国・アジア市場（薬品）への展開強化



新規事業の 創出

- ・ 最先端半導体向けの薬液精製需要が拡大
- ・ バイオ医薬・リチウムイオン電池向けの精製設備は装置の実証テストを展開
- ・ 最先端半導体・高度下水処理など米国への展開の準備進める



中計進捗状況：さらなる取り組み

重点課題である 電子産業・機能商品・新規事業に加え、
生産効率化とソリューション強化に向けた取り組みを強化

生産効率化

- ・生産キャパシティの拡大と技術力強化を目指したグローバルエンジニアセンターの設立に向け、外国人技術者の採用と育成を開始
- ・新ERPシステム※の稼動など業務効率化を全社で推進

※経営資源情報を一元管理する統合基幹業務システム

ソリューション強化

- ・海外でのソリューション体制強化を推進
 - ⇒中国：電子産業向けのメンテ拠点を設置・体制強化
 - ⇒ASEAN：一般産業・電力向けソリューション強化

中計進捗状況：TOPICS

生産・業務の効率化推進

・ ICT（情報通信技術）活用



水処理設備の建設や設備診断などお客様工場における現場作業の効率化に向け、タブレットPCを導入。図面や技術情報、装置状況を即時に共有し、作業時間を短縮。

・ スマートグラス導入



プラントの建設や設備診断にスマートグラスを導入。現地情報を遠隔地からでも共有できることでスピーディーな現場支援を実現。お客様との情報共有や海外での利用に適用範囲を拡大。

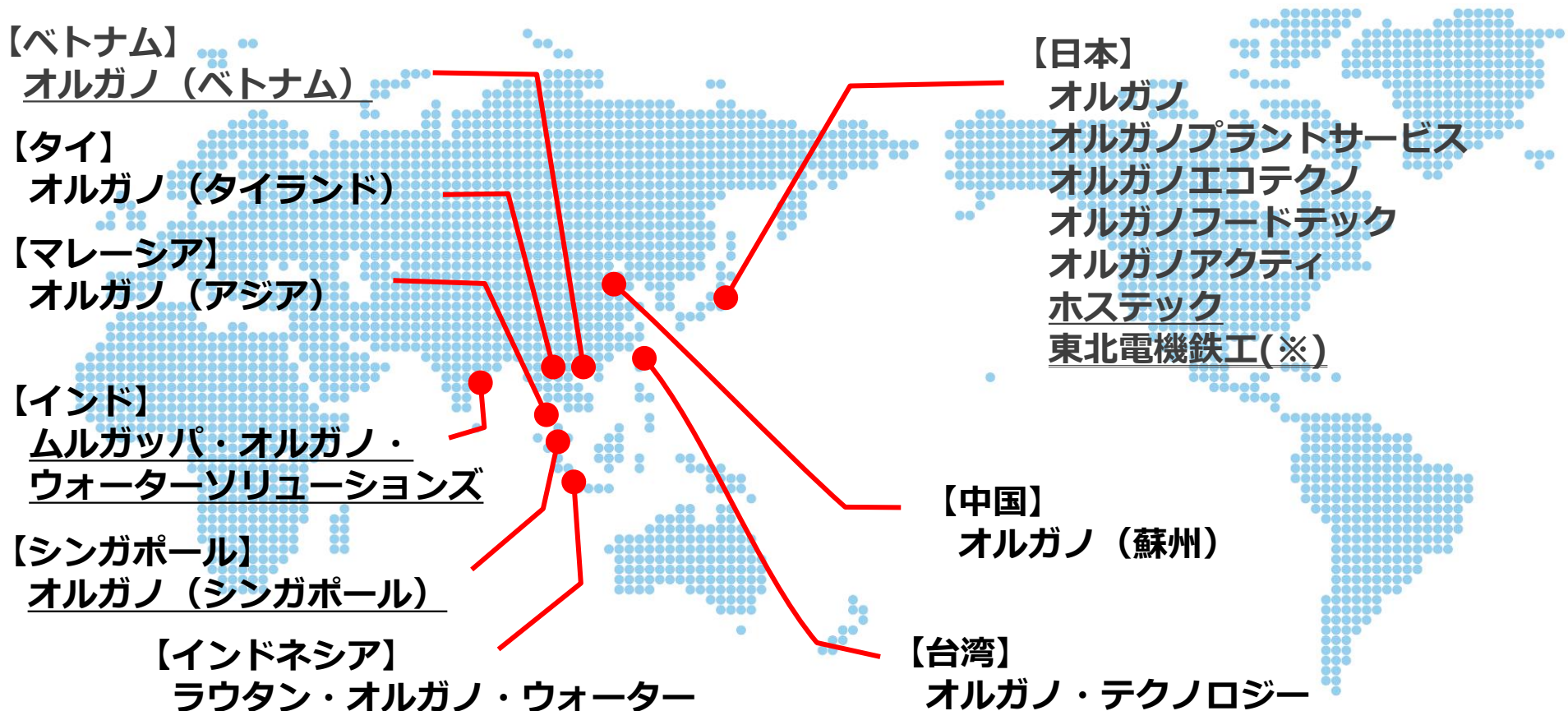
目 次

- 1. 2020年3月期 上期実績
- 2. 2020年3月期 通期見込
- 3. 中長期経営計画進捗状況
- 4. 会社概要

会社概要

社 名	オルガノ株式会社（英名：Organo Corporation）		
本社所在地	〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号		
設 立	1946年5月1日		
代表者	代表取締役社長 内倉 昌樹		
資本金	82億2,549万9,312円		
従業員数	2,249名（連結） ※2019年9月30日現在		
主な 事業内容	水処理エンジ	プラント事業	大型水処理設備の製造販売
	ニアリング事業	ソリューション事業	設備のメンテナンス・運転管理・改造工事等
	機能商品事業		標準型水処理機器、水処理薬品、 食品添加剤の製造販売
主な 事業所	本社（東京都江東区）、開発センター（相模原市）、 つくば工場（つくば市）、いわき工場（いわき市）、 北海道支店（札幌市）、東北支店（仙台市）、 関東支店（東京都江東区）、中部支店（名古屋市）、 関西支店（吹田市）、中国支店（広島市）、九州支店（福岡市）		

オルガノグループ各社



(※)は持分法適用会社、下線は非連結子会社・関係会社

オルガノグループの歴史

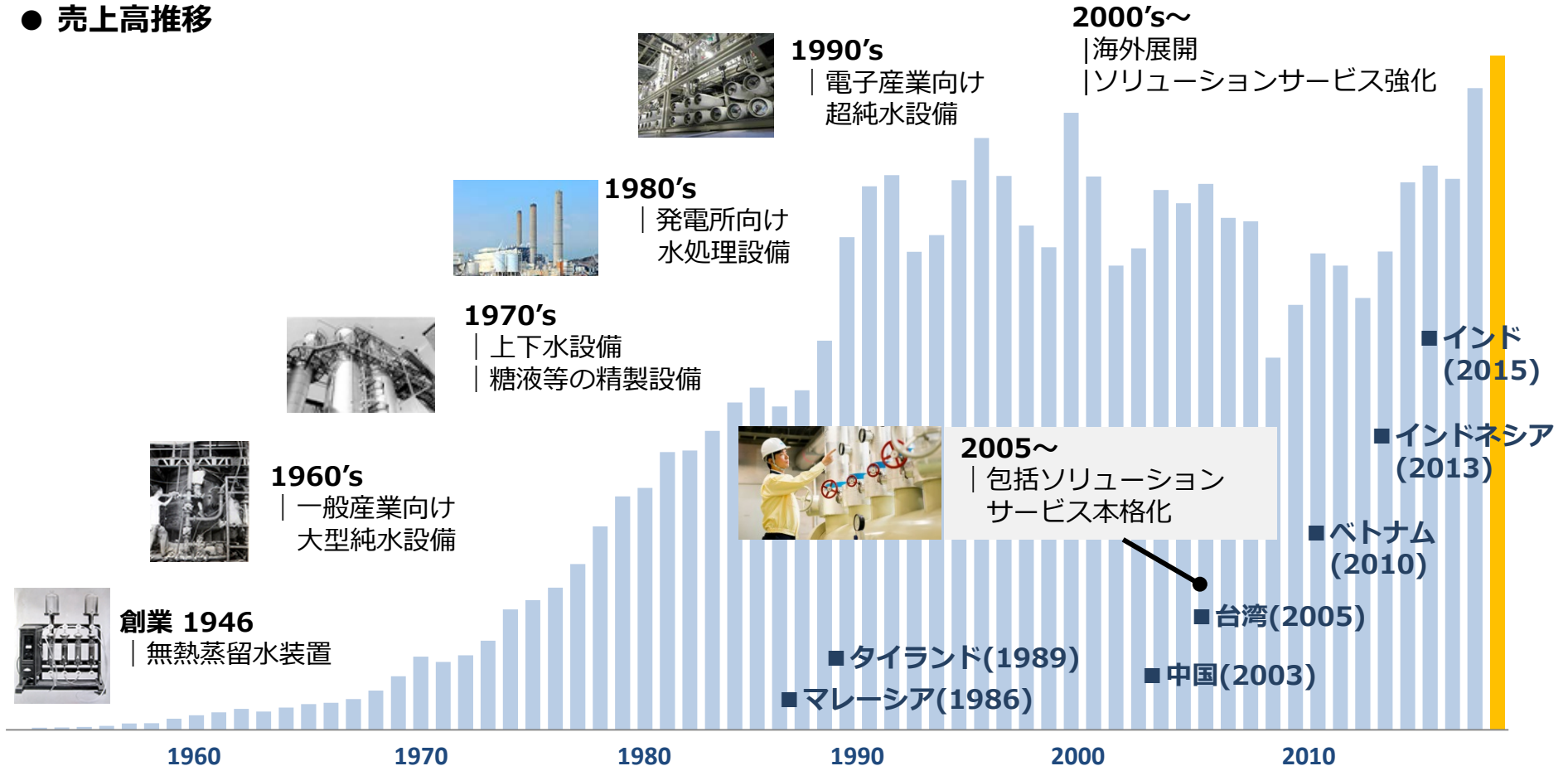
創業期

成長期

成熟期

再成長期

● 売上高推移



オルガノグループの事業

水処理エンジニア事業

ソリューション
364億円



- 消耗品交換・メンテナンス
- 運転管理・包括メンテナンス
- 改造工事
- 水処理加工受託

2019.3期
738億円

プラント
373億円



- 純水・超純水設備
- 排水処理・回収設備
- 有価物回収設備
- プロセス関連設備

機能商品事業

食品加工材
53億円



- 食品添加剤
- 食品素材

標準型機器・フィルタ
61億円



- 純水・超純水装置
- 浄水フィルタ

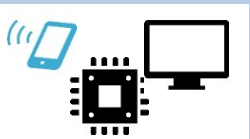
2019.3期
184億円

水処理薬品
69億円



- 排水・冷却水・洗浄・RO膜・ボイラ等処理剤

電子産業



- 半導体
- FPD
- 電子部品

電力/上下水



- 発電所
- 浄水場
- 下水処理場

一般産業



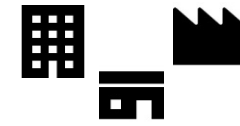
- 医薬/化粧品
- 食品/飲料
- 機械/化学

機器/フィルタ



- 医療/研究
- 各種製造業
- 飲食/コンビニ

水処理薬品



- 各種製造業
- ビル/商業施設

食品加工材



- 食品加工
- 飲料製造
- 介護/健食

オルガノ株式会社



お問合せ先

経営統括本部 経営企画部

TEL : 03-5635-5111 / FAX : 03-3699-7240

ホームページ <https://www.organo.co.jp/>

問い合わせフォーム <https://www.organo.co.jp/contact/input/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。